

令和7年 1 0 月 3 1 日
令和7年度第2回福岡県気候変動適応推進協議会

今年の夏の天候の経過と、
冬の天候の予測

福岡管区気象台気象防災部
気候変動・海洋情報調整官
清家 裕喜

本日の内容

●今年の夏の天候の経過

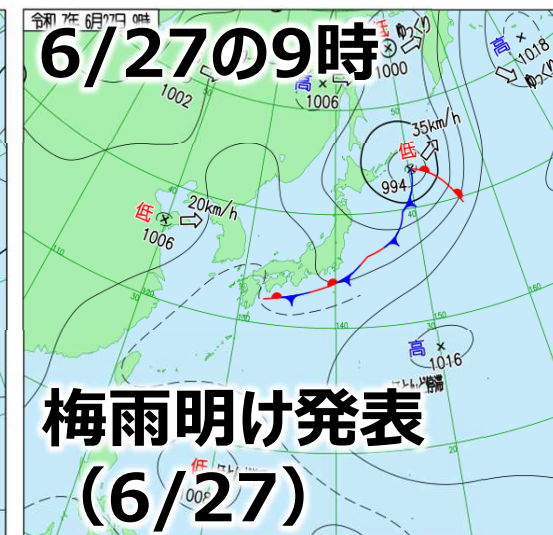
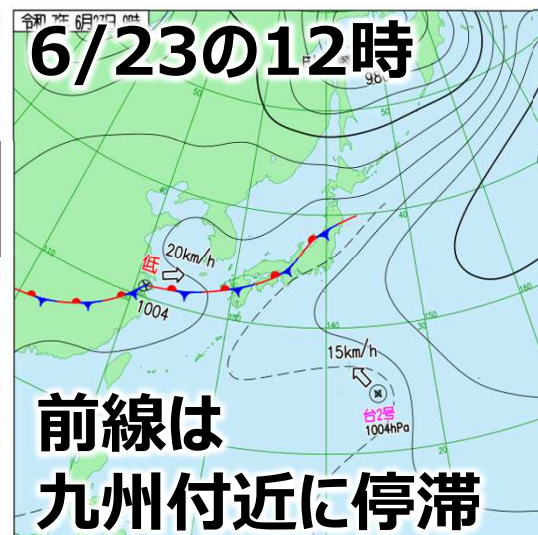
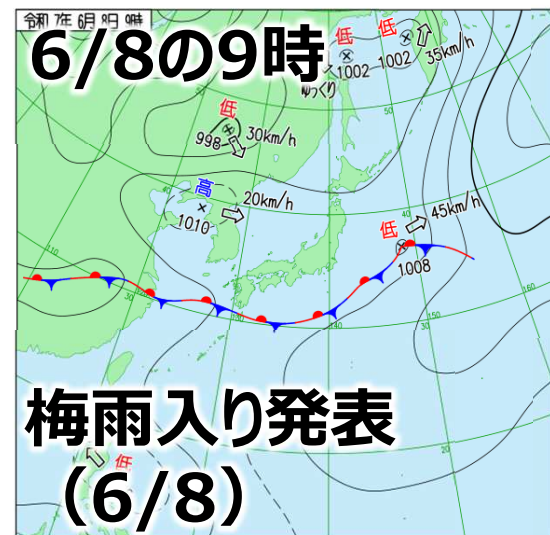
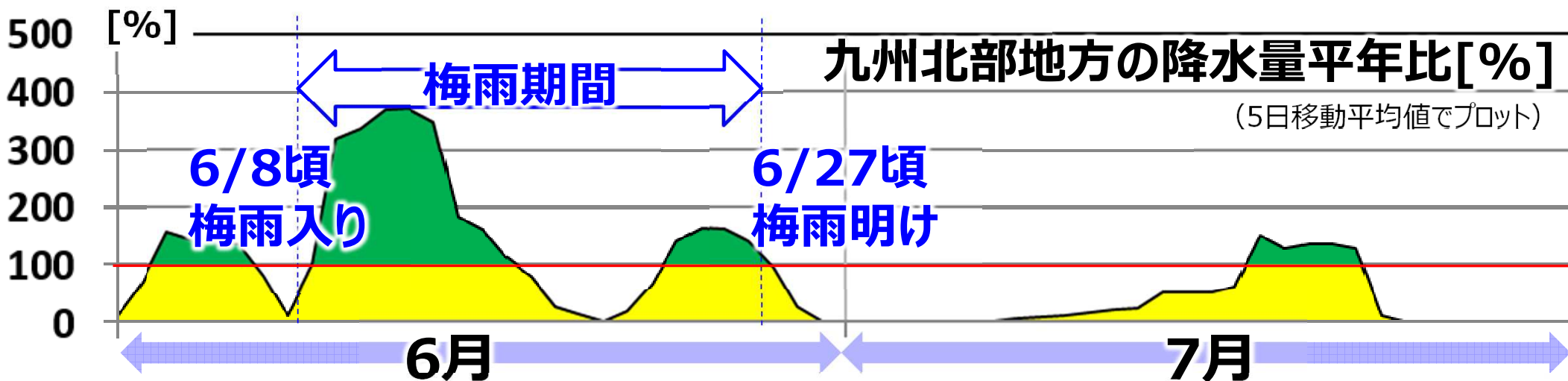
梅雨の概況

夏の高温

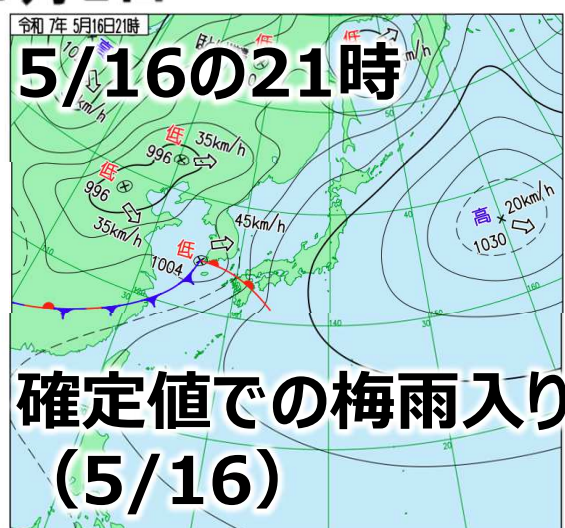
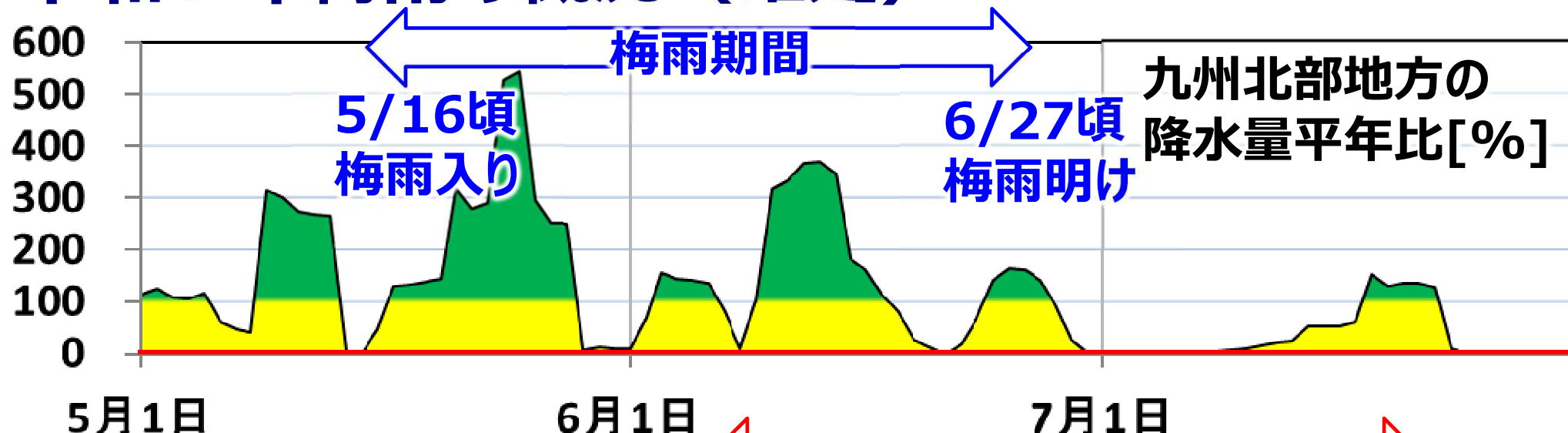
8月の大雨

●冬の天候の予測（寒候期予報）

令和7年梅雨の概況（速報）



令和7年梅雨の概況（確定）



九州北部地方の平年の梅雨期間

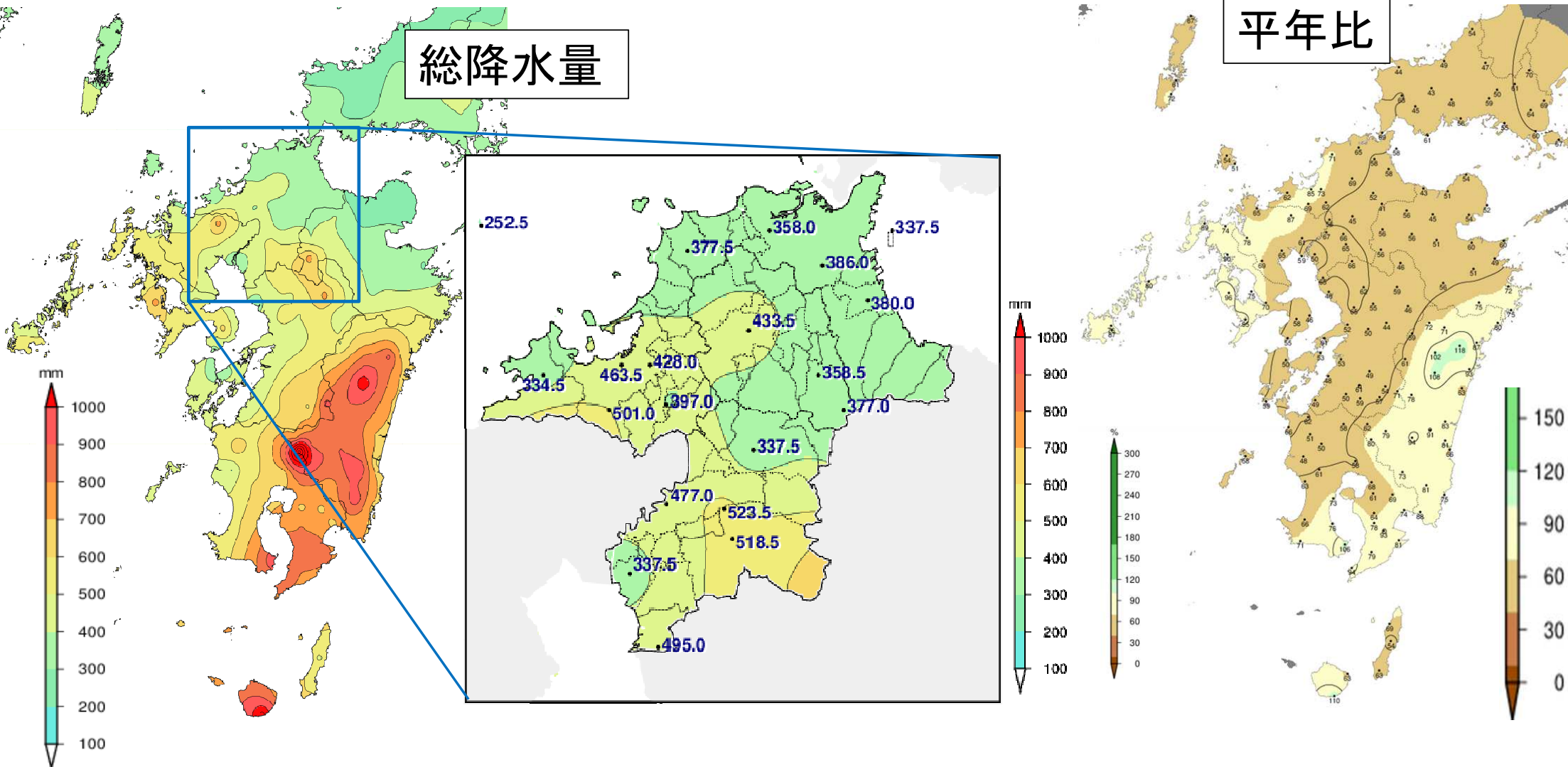
平年6/4頃
梅雨入り

平年7/19頃
梅雨明け

梅雨時期（6月～7月）の降水量分布

総降水量

平年比



令和7年の梅雨のまとめ

梅雨期間の特徴

- 九州北部地方は、かなり早い梅雨入り、かなり早い梅雨明けとなった
(梅雨入り：5月16日頃 (6/4)、梅雨明け：6月27日頃 (7/19))
- 福岡県内の総降水量は全ての地点で平年を下回った
(総降水量：523.5～252.5ミリ 平年比：85～41%)

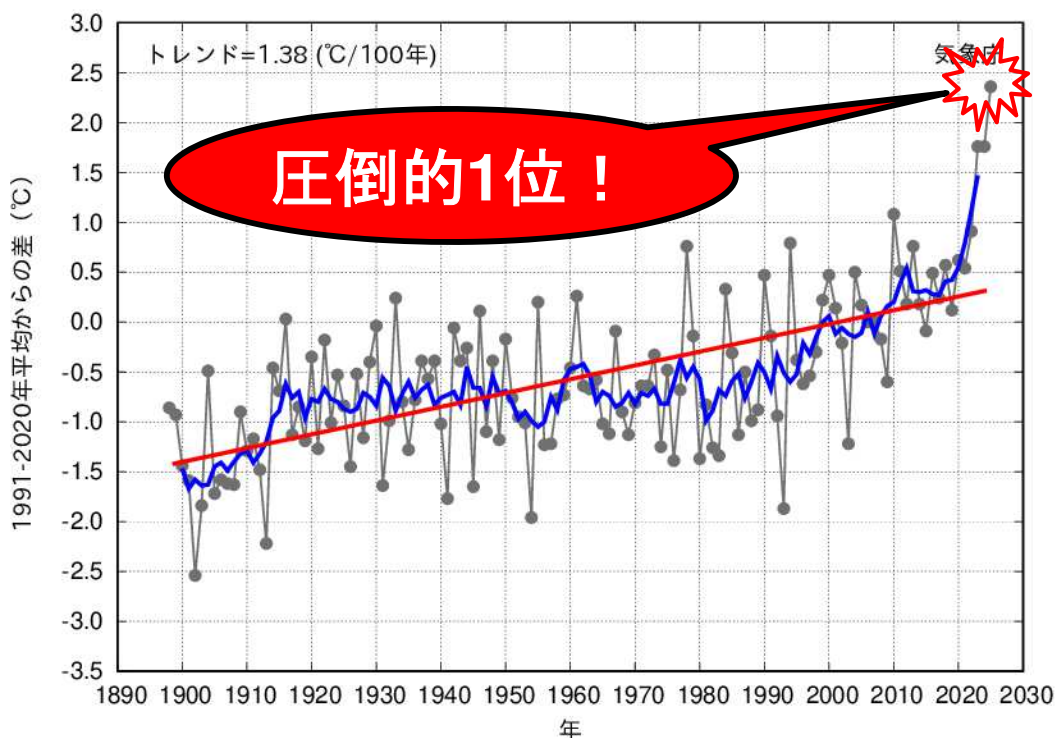
令和7年の警報等の発表状況

- 令和7年梅雨期間の土砂災害警戒情報発表は6月10日のみ
警報は6月10日：大雨（土砂、浸水）・洪水
6月23日：大雨（浸水）
6月24日：洪水

今年の夏(6月~8月)の高温

- ・全国的に気温はかなり高かった
- ・日本の夏の平均気温は 1898 年以降で最も高かった

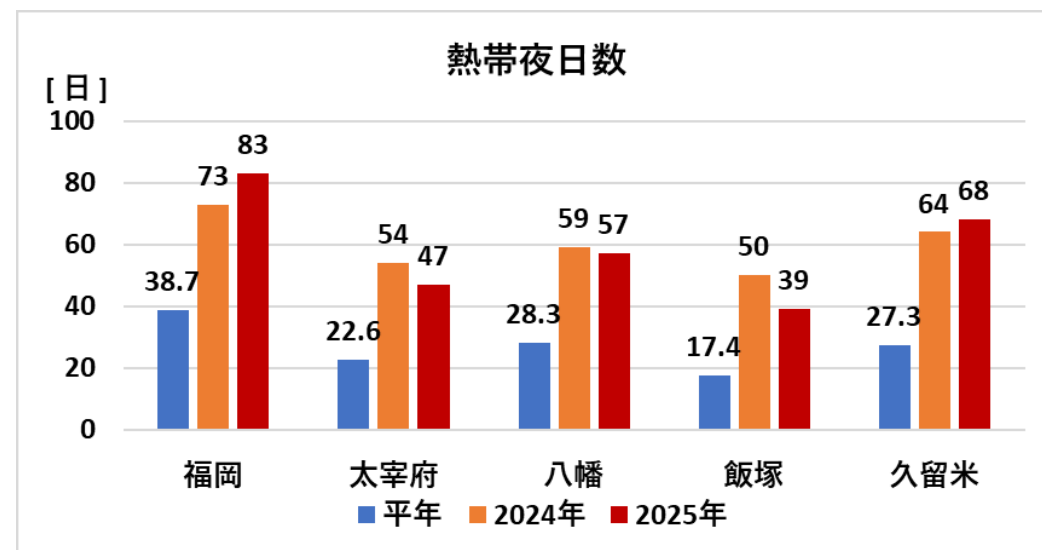
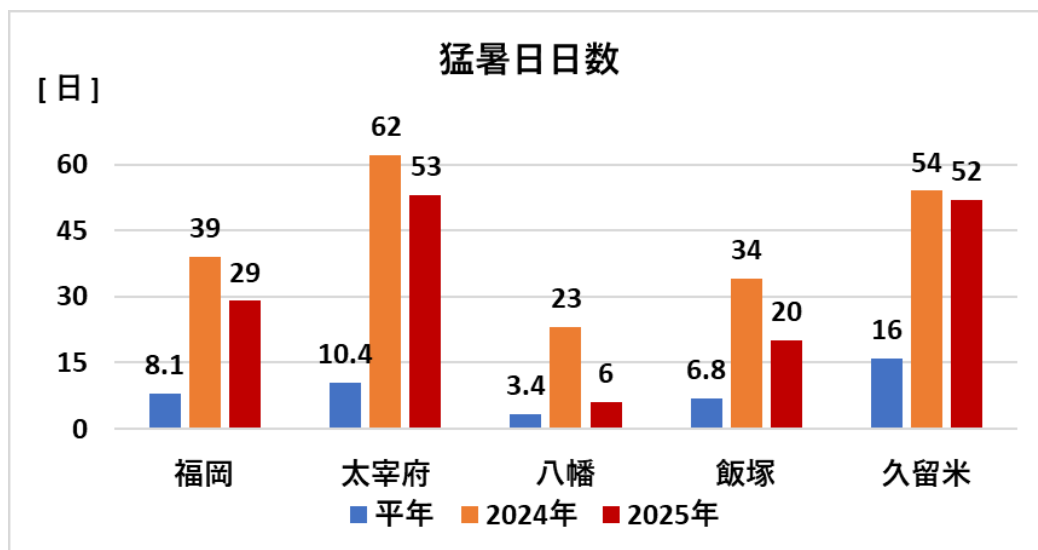
日本の夏平均気温偏差



順位	年	平年差
1	2025	+2.36°C
2	2024	+1.76°C
3	2023	+1.76°C
4	2010	+1.08°C
5	2022	+0.91°C

今年の夏も暑かった！

各地で猛暑日を観測。
猛暑日日数は平年の2～5倍、熱帯夜日数は平年の約2倍



6月～9月まで猛暑日と熱帯夜の日数（平年、2024年、2025年）

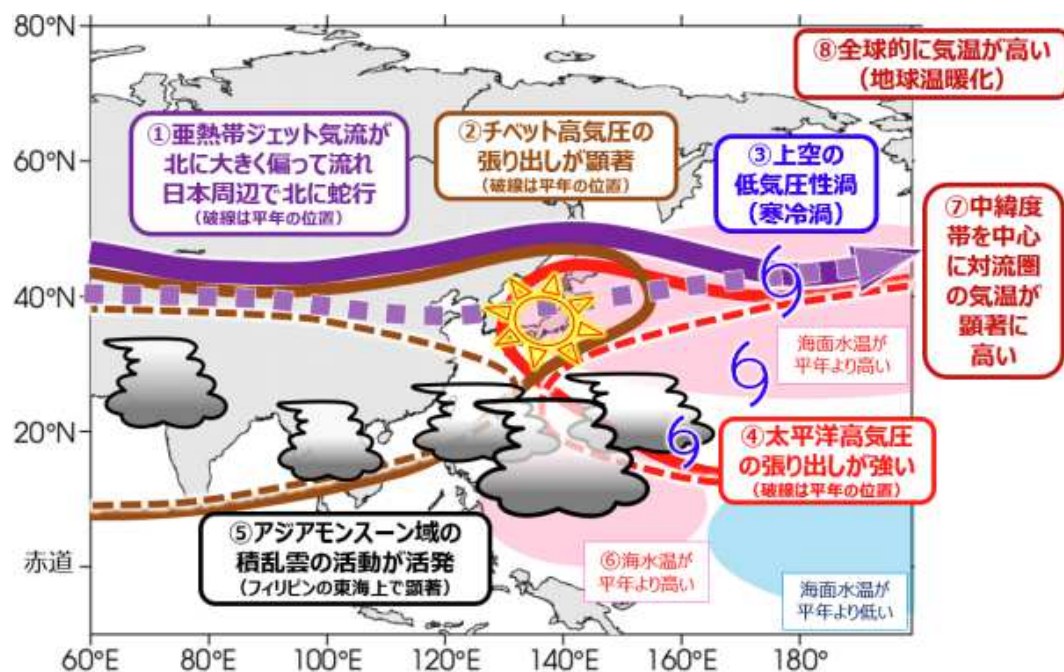
今年の夏(6月～8月)の高温の要因

上層：偏西風が北に蛇行し、チベット高気圧の張り出しが顕著

下層：太平洋高気圧の日本への張り出しが強い



日本付近は暖気を伴った背の高い高気圧に覆われた



—その他の要因—

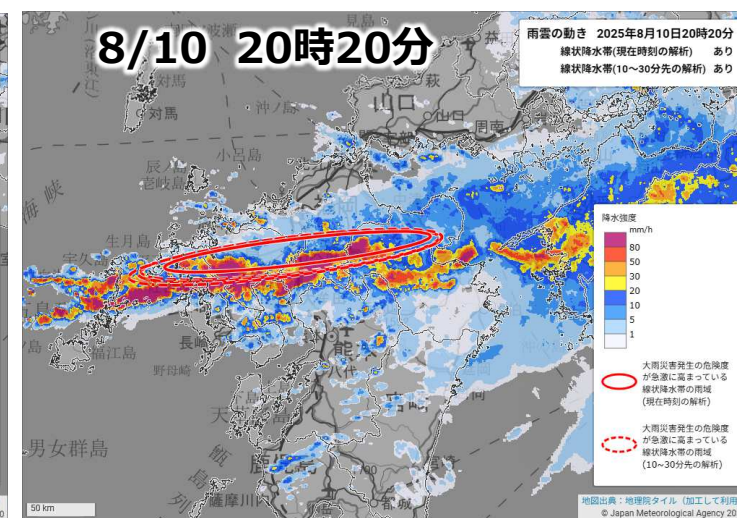
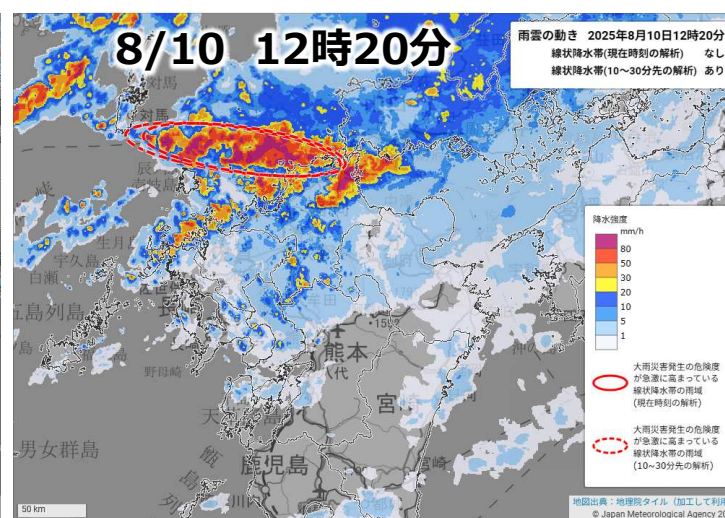
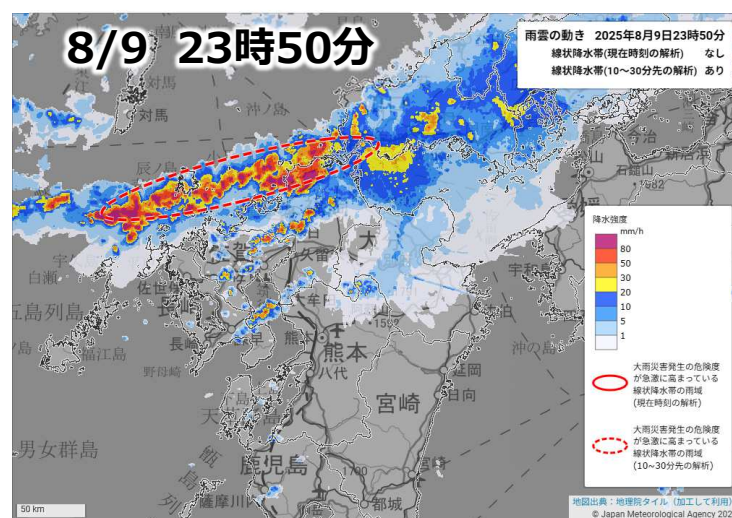
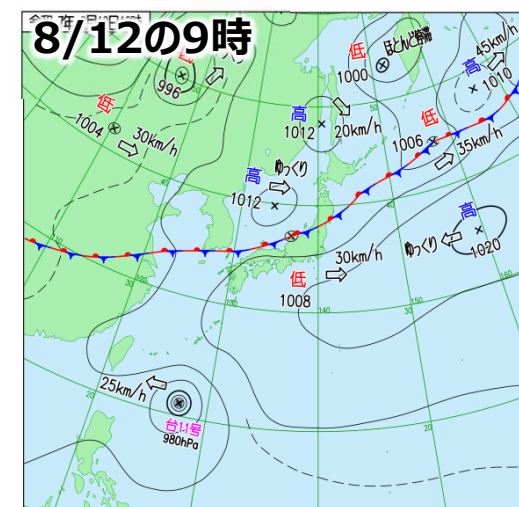
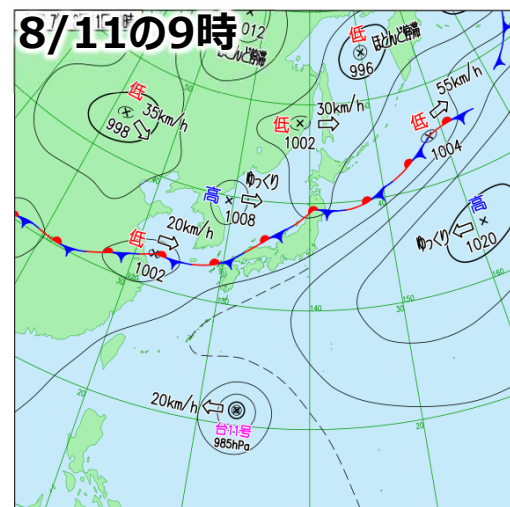
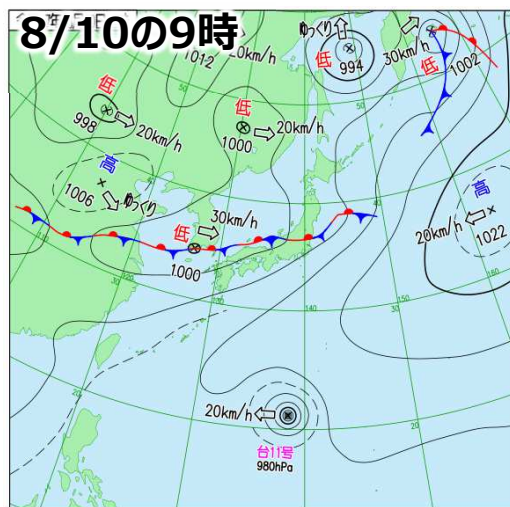
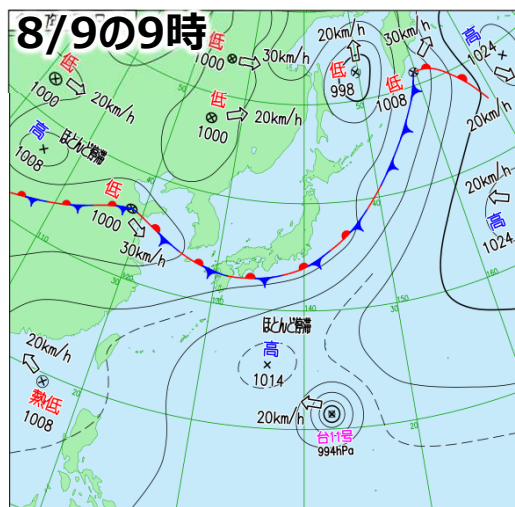
！地球温暖化の影響で気温が高い

！日本近海の海面水温が高い

夏の高温のまとめ

- この夏の日本の平均気温は1898年以降で最も高かった
- 福岡県内の猛暑日や熱帯夜も平年を大きく上回った
- この高温の要因は
 - ✓ 日本付近は太平洋高気圧とチベット高気圧に覆われた
 - ✓ 地球温暖化の影響で大気全体の気温が高かった
 - ✓ 日本近海の海面水温が高かった

令和7年8月9日～12日の大雨の概況



線状降水帯の検出状況

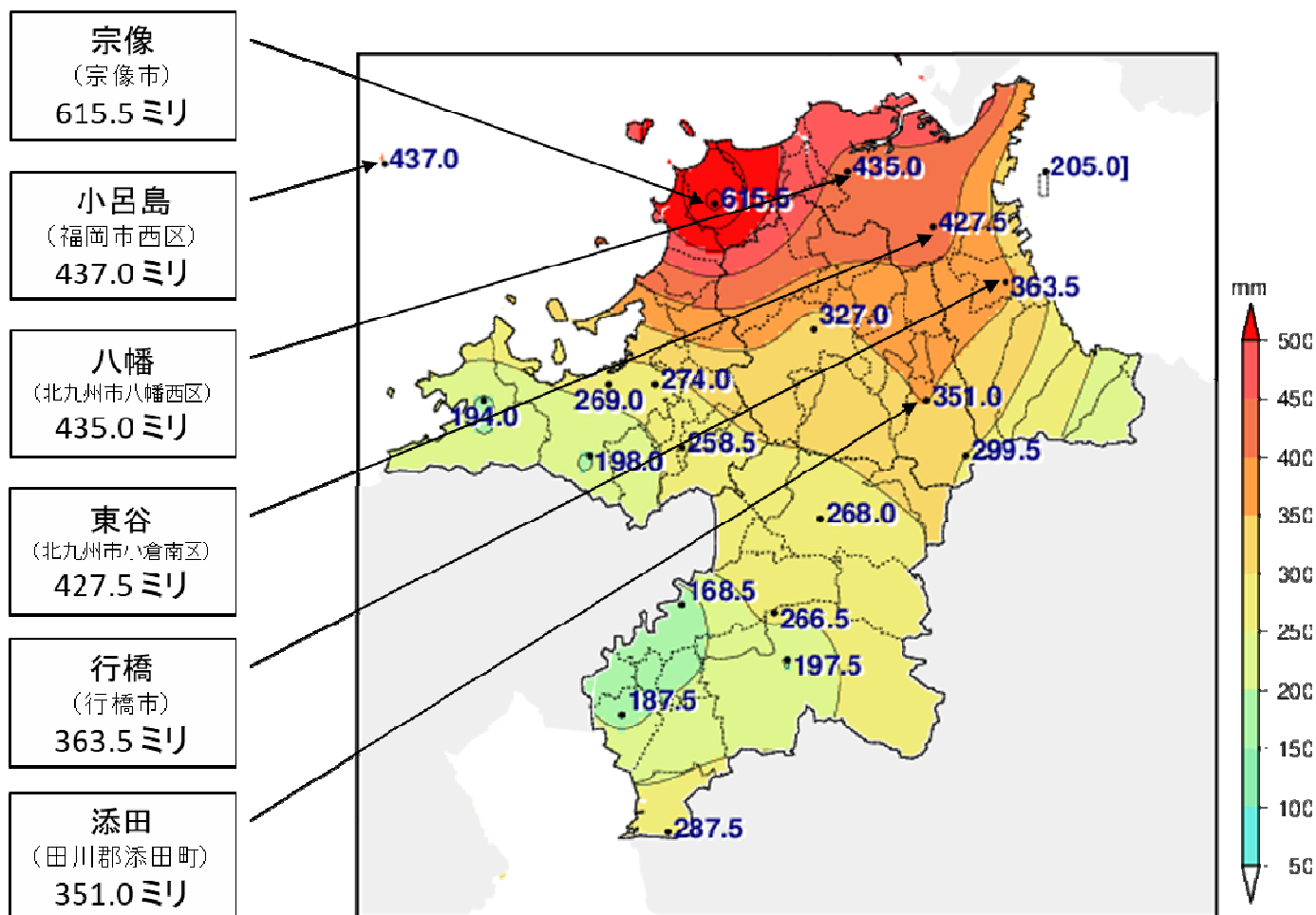
- 九州北部地方では8月10日12時からおよそ24時間にわたって断続的に線状降水帯が検出された。
- 福岡県福岡地方では断続的に7時間半にわたって線状降水帯の領域にあった。

	8月10日												8月11日																	
	23	0	1	2		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
福岡県福岡地方																														
福岡県北九州地方																														
福岡県筑豊地方																														
福岡県筑後地方																														

■ 顕著な大雨に関する気象情報を発表（府県気象情報）

■ 線状降水帯の領域に該当

アメダス総降水量の分布図(8月9日~12日)



地点名	総雨量	平年値 (8月)	平年比
小呂島	437.0	//	//
宗像	615.5	177.1	347.5%
八幡	435.0	198.1	219.6%
空港北町	205.0]	163.1	125.7%
東谷	427.5	218.6	195.6%
行橋	363.5	159.6	227.8%
飯塚	327.0	209.6	156.0%
前原	194.0	211	91.9%
福岡	269.0	210	128.1%
博多	274.0	246.9	111.0%
太宰府	258.5	237	109.1%
添田	351.0	213.8	164.2%
早良脇山	198.0	311.7	63.5%
朝倉	268.0	206.9	129.5%
英彦山	299.5	288.4	103.8%
久留米	168.5	227.7	74.0%
耳納山	266.5	226	117.9%
黒木	197.5	227.1	87.0%
柳川	187.5	198.3	94.6%
大牟田	287.5	212.6	135.2%

8月の大雨への温暖化の影響

- 温暖化に伴う気温や海面水温の上昇によって降水量が増加した可能性がある

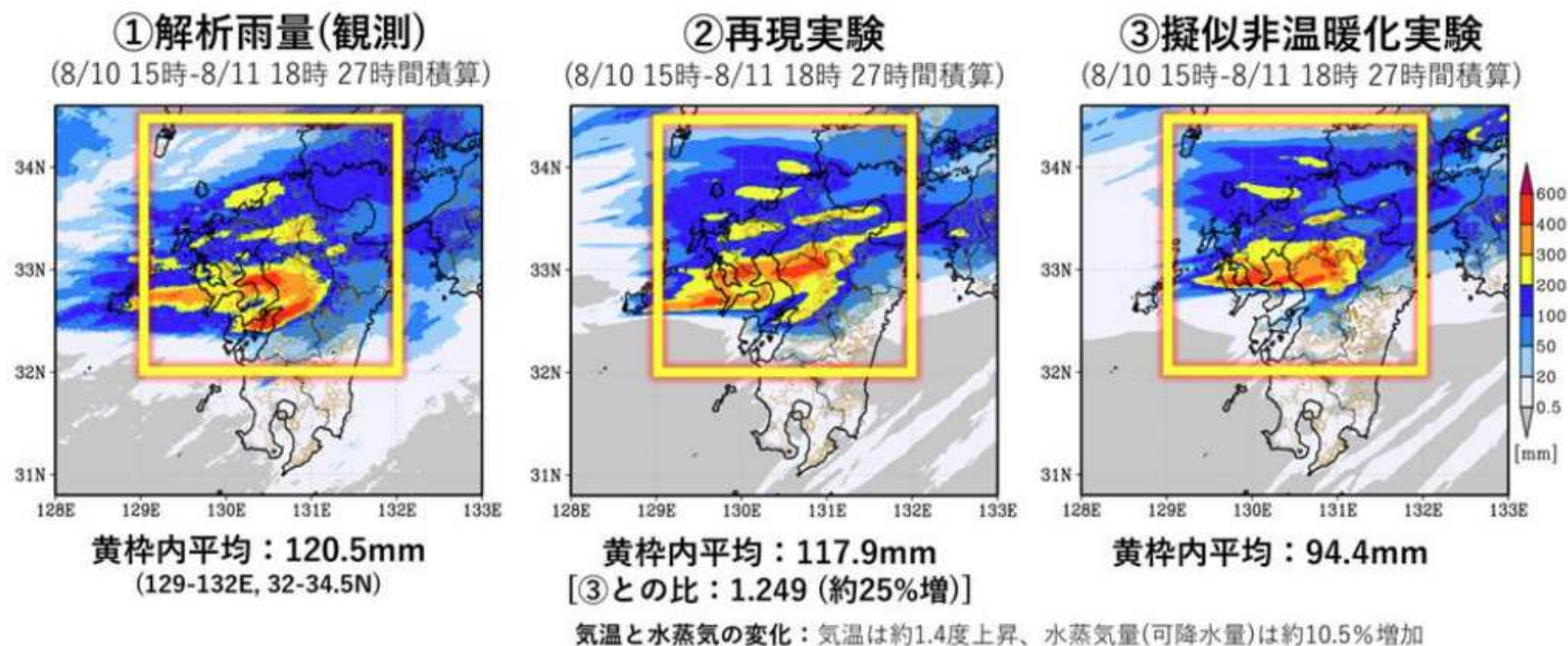


図 5-2 8月10日～11日の熊本県を中心とした大雨のシミュレーション結果

8月10日15時から11日18時までの27時間積算降水量、左：実況、中：実際の（温暖化がある）2025年の気候条件下で計算した降水量、右：温暖化が無かったと仮定して計算した降水量。

令和7年8月の大雨のまとめ

- 低気圧を伴った前線が対馬海峡から九州付近に停滞
- **中国大陸**からと**太平洋高気圧周辺**からの暖かく湿った空気が合流して流れ込み、大気の状態が非常に不安定になった
- **梅雨末期のような状況が形成された**
- **福岡県（九州各地）では大雨となり、長時間、線状降水帯が観測された**
- 温暖化に伴う気温や海面水温の上昇によって降水量が増加した可能性がある（令和7年9月5日気象庁報道発表より）

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentoukai20250905.html>

冬(12月～2月)の天候の見通し(寒候期予報)

九州北部地方の確率 予報および天候

	気温 低 並 高 (%)	降水量 少 並 多 (%)	天候の特徴
12～2月	ほぼ平年並 30 : 40 : 30	少ない 50 : 30 : 20	低気圧の影響を受けにくいため、 平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。

冬(12月～2月)の天候の見通し(寒候期予報)

冬の予報のポイント

- 気温はほぼ平年並であるが、冬のはじめ(12月)を中心に寒気の影響を受けやすい時期がある。
- 低気圧の影響を受けにくく、降水量は**少ない**。

冬の留意事項

- 冬のはじめは冬型の気圧配置が強まる時期がある。健康管理等に留意。
- 少雨が見込まれるため、農作物の管理等に留意。

冬(12月～2月)の天候の見通し(寒候期予報)

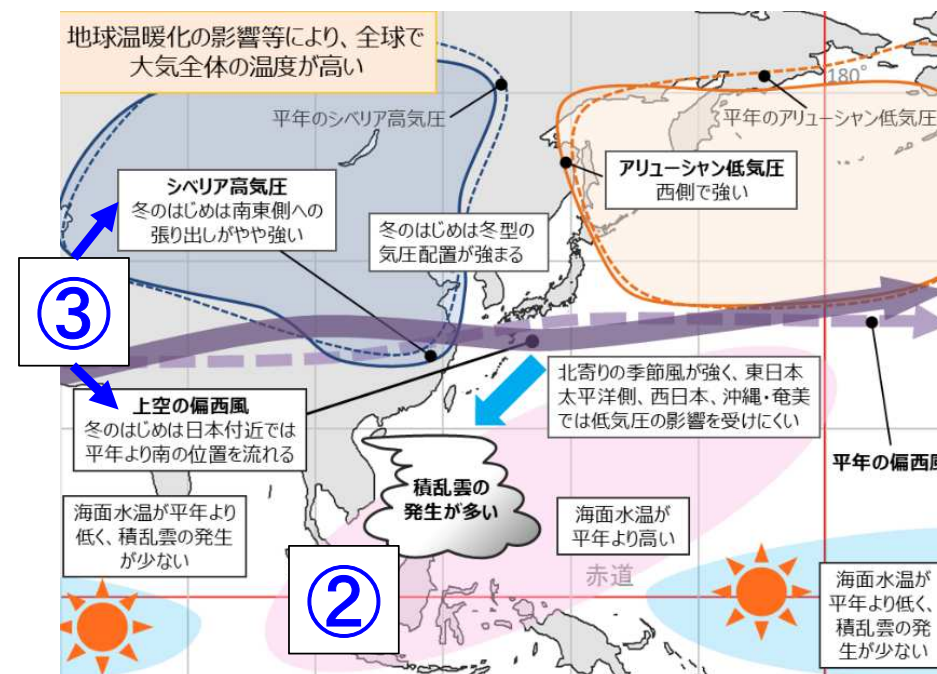
九州北部地方のポイント

- ・ 冬のはじめは、冬型の気圧配置が強まり**寒気の影響**を受けやすい。
- ・ 北寄りの季節風が強く、**低気圧の影響を受けにくい**。

予報の根拠

- ① 大気全体の温度が高い
- ② 冬のはじめはフィリピン付近で積乱雲の発生が多い
- ③ このため上空の偏西風は平年より南を流れ、シベリア高気圧は南東側への張り出しがやや強い

冬の半ば以降は上空の偏西風はほぼ平年の位置を流れる



予想される海洋と大気の特徴